

第1回 内航カーボンニュートラル推進に向けた検討会 議事概要

検討会概要

【日 時】：令和3年4月12日（月） 10:00～12:00

【場 所】：中央合同庁舎第3号館 国土交通省8階特別会議室（WEB 併用）

議事内容

○事務局（国土交通省海事局）から説明

- ・内航海運のCO₂排出量の現状
- ・他モード・他業種における現状
- ・カーボンニュートラルに向けた政府全体の動き
- ・内航海運のCO₂排出削減に向けた支援施策
- ・内航海運における更なるCO₂排出削減方策

○資源エネルギー庁からの説明

- ・カーボンニュートラルに向けた基本的考え方
- ・エネルギーミックス進捗・見直しの状況
- ・省エネの更なる深掘りに向けた課題・方向性

○関連業界・団体等における取組について説明

- ・（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構、石油連盟、（一社）日本鉄鋼連盟、計3団体の方々より、取組を説明。

○主なご意見

- ・海運業界は船舶や機器類を使うユーザーの立場であり、CO₂を削減できる船舶や機器類を製造していただかないと対応できないため、内航海運からのCO₂排出削減に向け、エンジンの技術開発や燃料供給なども含めた「今後の道筋」について提示していただき、価格競争力のある選択肢を示していただきたい。また、一度代替した船舶は20年～30年ほど使用されることもあるため、今の時点で「今後の道筋」が明らかにならないと代替が進まない恐れがある。
- ・船舶へのモーダルシフトは内航海運からのCO₂排出量増加に繋がるものの、運輸分野全体からの排出量削減に貢献するものであり、この点を考慮すべき。
- ・物流にとって高速サービスは肝であり、特にRORO船は、陸上輸送と競合しており減速運転は困難。サプライチェーン全体を変える必要がある。
- ・内航船はサイズや船種等によって異なる課題を抱えている。今回の検討においても、サイズや船種等による多様な内航船の特徴も踏まえた議論が必要ではないか。
- ・今後の代替燃料として、バイオ燃料を扱うという選択肢はあるのか。もしくは、バイオ燃料ではなく水素燃料等にシフトしていくのか。方向性を知りたい。
- ・当面、LNG等の代替燃料への転換が進むと考えられるが、政策面ではその円滑な導入のための支援をお願いしたい。また、その先のカーボンニュートラルの実現に向けては、燃料電池の利用に加え、技術的ハードルは極めて高いものの、水素・アンモニアなどの新燃料エンジンの開発が不可欠であり、日本メーカーの能力を結集する共同開発等の促進策も検討頂きたい。 等

以上